

(様式3)

令和6年度要望課題の傾向と対応

農業 部門

1 要望課題の検討経過

各部門（作物、野菜、花き、果樹、畜産、茶業、環境基盤、経営）の担当者が、令和5年6月から8月にかけて要望者と連絡をとり、具体的な要望を聞き取った。それらをもとに、各部門別推進会議（7月から9月）において、要望ごとの対応方法や研究課題化する際の研究目標等について検討し、回答案を作成した。その後、10月4日開催の県庁各課及び農林水産事務所農業改良普及課、農業大学校を構成員とする農業専門分科会での検討結果をふまえ、各要望課題に対する回答を作成した。

2 令和6年度要望課題の傾向及び課題化の視点

(1) 要望課題の傾向

132課題の提案があり、前年（123課題）から増加した。要望課題の内容は低コスト・軽労・温暖化等環境対応等に対応するためのスマート技術導入を含めた生産技術の開発、品種開発及び系統造成、病虫害及び鳥獣害対策、有機農業、他目転換等と多岐に渡っていた。

部門、分科会毎の要望課題数は作物部門17課題、野菜部門33課題、花き部門22課題、果樹部門10課題、畜産部門19課題、茶業部門1課題、環境基盤部門作業技術分科会5課題、同環境安全分科会6課題、同病虫害分科会14課題、経営部門5課題であった。

内容としては、前述した生産技術開発に関する要望が76課題と過半数を占めた。次いで、品種開発及び系統造成の要望が、作物（2）、野菜（4）、花き（7）、果樹（1）、畜産（1）の15課題、病虫害対策は8課題であった。これらに含まれるものも合わせてリモートセンシング、AI活用や画像解析、環境制御等のスマート農業関連の技術開発の要望が21課題あった。

(2) 課題化の視点

66の要望課題について課題を設定した。うち13課題は、公募事業への応募等も含めて新たな課題を設定し、53課題は現在実施中の課題の項目に位置付けて実施することとした。

設定した66課題の試験研究基本計画2025重点研究目標での区分は「高収益、省力生産を可能にするスマート農業の実現」が10課題、「気候変動等の環境変化に対応した持続可能な農業の推進」が19課題、「愛知の強みを生かした競争力の高い農業の創造」が22課題、「愛知のブランド力を高める多彩な品種の創出による需要の拡大」が15課題となった。